



第11回



まちづくり推進会議

平成27年8月1日発行

平成27年6月26日（金）18：30～20：30 委員出席者数～25人 事務局出席者数～18人

◇委員の委嘱について

平成23年度から開催してきました「まちづくり推進会議」の委員の任期は2年間となっており、これまで2期4年間で10回開催し、多くのご意見、ご提案を受け、まちづくりに反映させてきました。

本年度からは新たな委員も迎え、3期目が始まりました。今回は、3期目の初会議となりましたので、菊池町長より各委員へ委嘱状を交付しました。



◆訓子府町人口ビジョン及び訓子府町総合戦略について

国において、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が打ち出され、地方創生に向けた本格的な取組が始まっています。

「地方創生」とは、日本が抱える、人口急減・超高齢化に伴う都市の衰退という課題に対し、国と地方が一体となって「しごと」と「ひと」の好循環をつくり、「まち」を活性化しようというものです。

本町でも、国の動きに呼応し、直面する人口減少に歯止めをかけ、地域の活性化を図るため、平成27年3月に「訓子府町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進本部」を設置し、「訓子府町人口ビジョン」と「訓子府町総合戦略」の策定を進めています。

今回は、これらに関する資料を委員に配付して説明を行った後、意見交換を行いました。

○主な質疑・意見は次のとおりです。

A委員：今のままの人口を維持できないのは分かりますが、それをどうやってイメージしていったらいいのか分からない。分からないうちに、段々少なくなっていくのだろうという感じを受けます。私としては日常生活に追われていて、将来の見通しは漠然としています。

町：配布した資料は国立社会保障・人口問題研究所が推計した推計人口となっているが、例えば、2040年に本町の人口が3,105人になるという数値は、推計の域を脱しないというのが本当のところではないでしょうか。人口問題には、いろいろな要素があり、例えば田舎に住みたいという若者も出てきている。実際に、推計とは全く違うような結果が出ている町もあると聞いている。しかし、いずれにしても全体的には、大小はあるものの人口減少社会というのは、やっぱり予測しなければならないのではと思います。

B委員：どの町でも老人施設などがどんどん増えているが、そういう施設も人口減少の時代になったらいらなくなったり、学校も今ある学校では教室が多過ぎると思う。そういう施設は今後



どんなふうに処分するのか。そういう建物が今後どんなふうになっていくのかなっていう気がしています。

町：1万1千人いた時代から5千人という約半分になった町というのは、かなり様相が変わってきている。これから2040年までの25年間に人口が仮に2千人減ったとすると、例えば、学校が2つから1つになるかも知れないなど、様々な縮小関係が出てくるのではないかと。それでは、どうやって人口を維持するか、国で言ったら1億人を切らないようにどうするかということで、地方創生の考え方が出てきていて、これからの25年間に想定して人口減少社会における総合的な戦略をつくりながら、実態に合ったまちづくりをしていかなければならないと考えています。

C委員：人口が減るといろいろな物が売れなくなると思うし、横断自動車道ができると人が町に寄らなくなると思います。そのような状況が今年、来年あたりに特に顕著に出てくると思うので、人口減少問題もあるが、人が町に寄らなくなるような状況は避けたいです。人口の話とは別なのかも知れませんが、これは非常に大事なことだと思います。そのためには、訓子府に人が来てくれるような魅力のあるものを考えていくしかないのかなと思います。

D委員：人口が減っていったら予算が組めなくなる事態が起きるんじゃないでしょうか。他の町では予算が組めなくて合併したという話も聞きました。これだけ人口が少なくなってきたら予算が組めなくなる心配がありますね。だから、なるべく減らないようにしてほしいです。

町：管内では置戸町や西興部村のように本町より人口規模が小さい自治体もあるし、日本で一番人口の少ない村が東京にあり、人口は100人台だが、立派に頑張っています。アメリカでも、千人台の自治体はたくさんあります。だから地方自治体は、まず潰れない。議会で合併しようとか、この町を無くそうとか議決しない限りは無くならない。例え100人台になっても。だから、そのような状況でも町民の人が生き生きと暮らせる町をみんなの力で作っていくことが求められるのではないかと思います。人口が少ないことは決してマイナスの要因だけではありません。

◆平成 27 年度の主な施策について

平成 27 年度の主な施策を記載した資料を委員に配布して説明を行った後、意見交換を行いました。



○主な質疑・意見は次のとおりです。

E委員：訓子府ではふるさと納税で地場産物などを送付することはやらないのでしょうか。それとも、何か規制があってやっていないのでしょうか。

町：本町では平成 20 年からふるさとおもしろいやり寄付制度を実施していますが、今まではお返しはやっていませんでした。特に規制はなく、現在 11 月 1 日を目標に準備中で、お礼品を送る事業を開始します。お礼品については7月号の広報で特産品などを提供していただける事業者を募集する予定です。よくあるカタログギフトのようなイメージのシステムになります。また、併せてインターネット上で寄付やお礼品の注文ができる制度を考えています。

この制度により訓子府の特産品や加工品をはじめ、津野町のものも含めて全国に宣伝したり、食べてもらったりするのも大事じゃないかということでスタートします。いろいろな意見をいただいておりますが、決断しました。

F委員：空き家対策をうまく活用できれば、人口増にもつながると思うが、具体的にはどんな制度がありますか。

町：町内会、実践会の協力をいただき、空き家の調査を2年ほど前に実施したところ、約90件の空き家があり、おおよそ半分がある程度手を入れれば使えるのではないかという状況です。そんな中、議会などでもいろいろな意見をいただき、まず空き家バンクを立ち上げることにしました。また、空き家バンク



に登録された物件に入居する方には補助金制度を設けました。家を持っていない町内の方が空き家を買って入居した場合、購入費用の1/2補助で150万円が上限。また、町内の方で中学生以下の子どもがいる方は2/3補助で200万円が上限。一方、町外から転入される方については1/2補助で200万円が上限。また、町外の方で中学生以下の子どもがいる方については2/3補助で300万円を上限としました。この制度は空き家の活用をはじめ、定住と移住の対策も含めた欲張りな政策となっています。

F委員：街灯のLED化事業について、町内会の費用負担のことも含めて具体的な内容を教えてほしい。

町：町内にある街路灯や防犯灯のほぼ全てを対象とした741灯をLED化しますが、27年度については、調査費用を予算措置しました。その調査結果を基に28年度に工事を行う予定です。



この工事に関しては町が直接行うのではなく、電気会社で工事を行い、その工事費から国の補助を除いた分について、町が10年間リース料として支払っていくという制度を利用します。また、調査費用については、国の補助金で100%賄えるかたちとなり、今回756万円を予算計上しています。

町内会の費用負担については、工事に伴う新たな負担はなく、今までと変わらない負担でLED化ができると理解してください。

A委員：要望なんですけど、街灯を付けたら20年、30年使うことになると思います。夜、町に下りると街灯が町の明るさになるので、例えば、冬にLEDの青白い明かりは寒さを感じるので、赤い色にできないでしょうか。また、夏だったら赤い色は暑く感じるので、違う色に変わるようなLEDを付けて、その時々で反映してくれないでしょうか。最近、室内のLEDでは色が変わるものがありますので、そういうふうになってくれたら町の明るさも変っていいのかなと思います。

町：事業費の問題もあるが、道道では街灯の色を変えている例もあるようですので、町民の皆さんにとってそれがいいのであれば調査で検討していきます。

G委員：空き家対策についてですが、日出の教職員住宅の空き家が3戸ぐらいあります。もう3年ぐらい空き家のままですが、一般に解放されることはないのですか。立派な建物がもったいないと思います。

町：教職員住宅は教職員のための住宅で、居武士小学校の先生が中心ですが、訓子府小学校や訓子府中学校の先生が入居することもあります。実際のところは、学校の先生の数も減ってきている状況もあって、教職員住宅の数より入居する必要のある教職員の人数が少ない状況です。現在、空き状況によっては一般の方も入居してもらうことを検討しています。ただ、教職員の人数分は確保していかなければならないので、空いたらすぐに入居してもらうということにはなりませんので、計画性を持ちながら進めたいと思います。



また、北見農業試験場の住宅がたくさん空いているようなので、町から道庁に掛け合ってみようと思っています。

F委員：ラジオなどで聞いたことがあるが、「ちょっと暮らし」と言って、例えば冬の一定期間に教職員住宅を解放して住んでもらって、気に入れば移住してもらう制度のようです。近隣の美幌町でも教職員住宅を解放し、定住につなげるなどの実績を上げているようです。せっかく空いている住宅があるのだから、訓子府町でも移住や定住のために空き家の活用を検討してはどうでしょうか。

町：例えば釧路市であれば、花粉症のため都会で生活できない方が、釧路に住んでみて、そのまま住み続けるという例も出てきている。逆に、訓子府町でアレルギー過敏症だった方が、他の町に移り住んでいる方もいる。そういう点でいくと、訓子府町の特徴を活かしながら、空き住宅を効率的に使っていくことも考えていかなければならないと思っています。

F委員：国のお金を使って建てているというところはあると思いますが、空き家にしておくのはもったいないので、どうか検討をお願いします。

A委員：パークゴルフ場についてこの頃感じているのは、有料にしてから利用者が減っている気がしますが、利用状況はどうですか。全部無料開放に戻したほうがいいのか、今のままでいいのか、どちらがいいのでしょうか。

町：有料化してから利用者が極端に減ったりはしていないと思います。減少傾向にはありますが、パークゴルフをやっている方の人口が減っているためではないかと考えています。



※まちづくり推進会議の議案は、訓子府町図書館内「訓子府町まちづくり情報コーナー」で閲覧ができます。